

# epoch

エポック No122

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

令和3(2022)年3月 発行

## 第13期第8回 概要報告

2月10日、第8回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。今期の報告書(案)が示され、概要の説明と意見交換が行われました。以下、概要をお伝えいたします。

### I 今期のテーマについて

#### 「コロナ禍の生涯学習推進におけるICTの活用と支援の可能性」

##### 第13期報告書(案)の概要

令和2,3年度のコロナ禍。生涯学習推進委員会議開始時、事務局より生涯学習のICT活用に関して諮問があり、以降7回にわたりさまざま議論を重ねた第13期。今期報告書の骨子が説明されました。

1. 千代田区におけるICT活用による「学び」の実態
2. ICT活用をめぐる問題点
3. ICT活用をめぐる問題点の背景
4. ICT活用の方向性と今後の課題

今回の特徴として、区内在住・在勤者に対するライフ・ストーリーインタビュー(※インタビューを受ける人の自由な語りを中心とする・今回は半構造化インタビューとしてあらかじめ質問をいくつか設定した)を盛り込んだ内容となりました。

##### 意見交換の内容

○インタビューを行なった。世代、在住者・在勤者、男女比など比較的バランスのよい形で行うことができました。ありがとうございました。

○実際にインタビューされたものは身近で、引用ではないリアリティが伝わってくる。

○千代田区でも各町内会や施設など、いろいろなICT活用支援を行っているが、これを推進する母体が必要ではないか。既に行っているのかもしれないが、デジタルデバイドの問題点を解決するための千代田区全体の底上げを推進する組織の強化が重要ではないか。

○OPTA のデジタル化を進めているが、結局デジタル関係に詳しい人に負担がいくことで仕事が属人化し、継続が困難になる場合が考えられる。ICT 活用に関して、どこか頼るところ、困りごとがあればここに聞ける、そういう場所があればデジタル化推進の道しるべになるのではないか。

○デジタルイリテラシー(\*)の人がPTA 組織の役員になる場合もある。ちよカレICT 講習をするなどによって、PTA と他の社会教育関係団体がつながっていくことも考えられる。

○小学校教育にデジタル活用を取り入れているので、その勉強を進め、小学生なりのものをもって上がってくる。学校では教員の情報スキルを上げる研修が続いている。

○九段生涯学習館での講座や、インストラクターの養成を行ってはどうか。ある程度ニーズがあるときに派遣できるような形の講座や人をリストアップできれば発展的ではないか。

○生涯学習はもっと間口を広くし、もっといろいろな人が参加できるような形が望ましい。支援する側・される側、ICT 活用、ノウハウ、どういう方向性で進めていくか、リーダーシップが必要ではないか。

○著作権は非常に難しい。プライバシーも同様である。著作権法や人権に関するプログラムなどがあればよい。

○コロナ禍ではサークル活動もガイドラインを作成して行った。ICT リテラシーも変えていくものである。千代田区のガイドラインがあれば、活動の説得材料にもなる。

＊デジタルイリテラシー

デジタルに関する知識や扱いがよくわからない

## Ⅱ その他

### ちよだ生涯学習カレッジ報告

トライアルコース修了報告 第8回 12月18日(土)

◆「これからの社会と個人の関係」  
「ライフデザインと地域デザイン」

◆ワークショップ「個のつながりとは？」  
「地域にウェルビーイングを創ろう」

不確実性、人や物・情報の流動性、個人世界の拡大する社会について講義を受け、地域全体のデザインングに参加することで、自らの幸福や快適をどう具現化していくか学んだ。

#### ① 最終アンケート結果報告

◆満足度は高かった。今後の意見として、個人の体系的な知識の蓄積、仕事以外のキャリアデザイン、コミュニティづくりの事例を知りたい等があった。ワークショップの学び合い、卒業生によるファシリテートを行ったことで、体験、雑談、コミュニケーションにつながり受講生にとって参加のモチベーションとなった。



### 第6期ちよだ生涯学習カレッジ 受講案内



ちよカレ  
第6期生  
入学募集

3月5日[土] 締切・必着

問合せ先：九段生涯学習館  
東京都千代田区九段南1-5-10  
【電話】03-3234-2841  
【メール】chiyoda-college@shopro.co.jp  
【ホームページ】右下QRコードより

#### 募集概要

・対象：千代田区内在住・在勤・在学の18歳以上29歳未満の市民・住民  
・期間：約1年間継続して学ぶことが可能  
・学費：授業料を免除し、教材費やボランティア活動などによる学費・雑費のみを支払う  
・ちよだ生涯学習カレッジ受講料を免除  
・定員：30名(男女)・募集料：年間1万円  
・募集期間：2022年4月～2022年2月25日(申込)～2月27日(締切)  
・申込期間：2月5日(土)～27日(土)  
・入学金：2022年度は免除  
・入学金免除は、申込書類を提出し、申込書に提出した写真が本人であることを確認し、併せて提出した上で実施する。

2/19 入学説明会オンライン開催 (YouTube Live)  
「人生100年時代の学びの可能性」

日時：2月19日[土] 19:00-19:30

会場：千代田区九段南1-5-10 ちよだ生涯学習カレッジ5階大会場

参加：無料(入場券・お茶代、お弁当は各自持ち込み)

内容：①カレッジ紹介 ②卒業生の活動紹介

③「人生100年時代の学びの可能性」(入学金免除)

講師：募集要項に記した各専任講師、公益財団法人ちよだカレッジ学芸員、ほか

ちよだ生涯学習カレッジ  
http://www.chiyoda-college.jp/



## リレー随筆

### 体感的「学び」の意味

佐藤 晴雄

ゼミ学生と雑談したときの話である。ある男子学生はアイドル好きで、乃木坂46などの坂道シリーズのライブにもよく参加するという。このシリーズは人気グループであるから、ライブは大規模劇場等で開催されるため、多くの観客からは舞台上のメンバーの顔はもちろん、動きもはっきりと見るできないと思ったので、テレビや動画の方がよいのではないかと話したところ、その男子学生は「ちがいます。よく見える／見えないよりも、同じ場において、同じ空気に触れ、同じ音を聞き、そして我々の声援が舞台に届く可能性があるところに意味があるんです」と言うのである。さらに、「もしかして、僕のことを見ているかも知れないのです」とも。なるほどと思った。場面を共有し、雰囲気を感じることの意味があると理解できた。

ところで、コロナ禍における学習の在り方としてICTの活用が課題視され、本第13期でもテーマに取り上げたところだが、ICTの活用は重要に違いないものの、その男子学生の指摘のように、やはり「学び」にもライブ感が不可欠なのである。言うまでもないが、同じ教室で、実際の講師等から講義を聴き、指導を受けることは遠隔型授業とは異なる意味がある。

また、2021年度には勤務校の2年生対象の演習を対面で実施したところ、多くの学生は友人ができたと喜んでいて、前年度にはほぼすべての授業が遠隔型だったため、学生間のつながりが生まれなかったからである。「学び」には、知識・技術を習得することだけでなく、学習者間の交流を促すという意味もある。

昭和の頃、学校の授業に出席しながらもほとんど反応を見せない生徒がいた。しかし、そうした生徒にとって、授業場面に触れ、多くの級友の中に「居る」ことを体感できたに違いない。

現在、ICTを活用した「学び」に移行することも考えられると主張する論者もいるようだが、体感が得られる対面型の「学び」の意味を改めてかみしめたい。

#### ～事務局からの報告～

第13期「千代田区生涯学習推進委員会議だより epoch」は今回をもって最終号となりました。今月号のリレー随筆は佐藤会長に寄稿いただきました。コロナ禍となった令和2年度より、委員の皆様には、リレー随筆をはじめ多大なるご協力を賜りまことにありがとうございました。この場お借りして厚く御礼申し上げます。

次回、第9回会議は、第13期として最後の会議となり、樋口区長への報告書提出が行われます。

#### 【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL 03(5211)3632 FAX 03(3264)1466

E-mail shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp